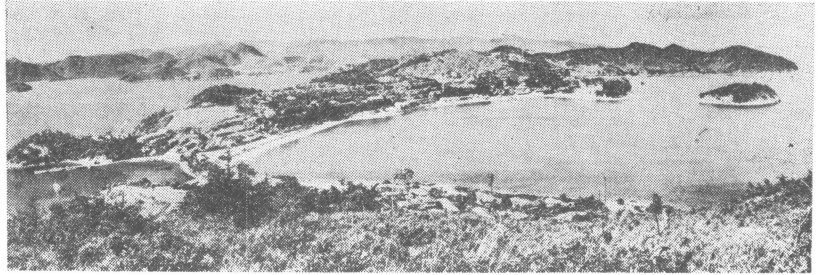


地方だより

長島観測所



長島愛生園全景

長島は岡山県の南東部、瀬戸内海に浮ぶ周囲7軒の細長い島です。「小島の春」でおなじみの長島愛生園と、邑久光明園の二つの国立療養所があり、ハンゼン氏病を病む2700名の患者が静かに療養生活を営んでおります。島の中央光ヶ丘には恵みの鐘があり、その傍に私達の長島観測所があります。観測台に立つと、東は播磨灘を経て淡路島を望み、西は備讃瀬戸、南は小豆島の向うに屋島や四国の山々が眺められ、瀬戸の風光を一望に取ることが出来ます。

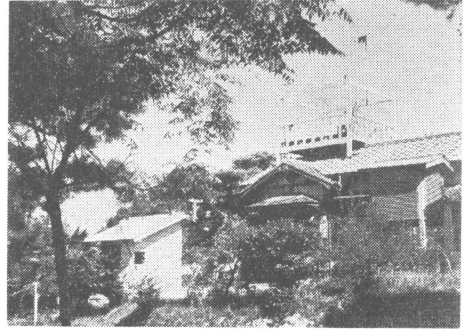
創立は昭和10年8月1日、前園長光田健輔先生の発意によるもので、前年の関西風水害にかんがみ、気象の災害に備え、併せて患者に自然への関心を深めようとの意図からであります。昭和12年、当時岡山測候所長であった蔵重一彦先生、同所の原真一技師らの御配慮によって区内観測所として認められ、爾来今日まで患者の手で観測が続けられて来ました。昭和25年には、大阪管区気象台長より優良観測所として表彰を受け、戦中戦後の混乱の中にも一日も欠測のなかった努力が認められました。

現在一日三回（9時、15時、21時）の定時に、気圧、気温、湿度、蒸気圧、雲量、雲形、空の状態、風向、風速、降水、日照等の観測を行っています。資料は岡山地方気象台に送り、同台発行の「岡山の気象」には、岡山及び、津山測候所と並んで長島観測所のくわしい月表が掲載されています。なお、暴風、大雨、異常乾燥に際しては、園内の放送をもって、注意を喚起し、病友達に喜ばれています。測器類も年と共に充実し、一日巻の

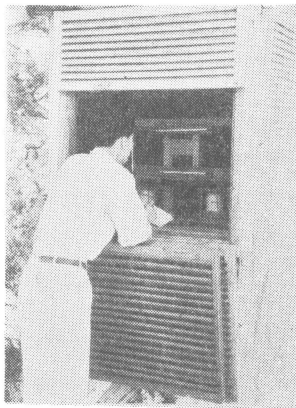
自記器として、気圧計、温度計、湿度計、風向計、風速計、計数器等があり、フォルタン水銀気圧計、自記雨量計、日照計等も備えております。

「観測室」

特殊なものとして微分気圧計がありますこれは先年気象庁研修所より贈られたもので、その記



「全景」



百葉柏で観測中の観測所員

録は研究資料として研修所の鈴木清太郎博士にお送りしています。この記録には核爆発の微気圧振動が現われます。世界の耳目の焦点である核爆発実験を、この閉ざされた島の中で、いち早くキャッチし得ることは痛快なことです。

私達は年々気象年報を刊行して来ましたが、目下堆積した資料を整理して二十年報の編さんに取り組んでいます。部員は6名ですが、五吋反射望遠鏡を使っての天体観測特に太陽黒点と、星食の観測を併せて行っています。なお、もう一つ私達の念願は、特殊な環境にある観測所として、病気と気象の問題を考えています。先年、本園の医師と協力して、「らい性神経病と気象」を発表しました。今

後、この方面について、医師や気象専門家の指導を仰ぎたいと希っています。

長島愛生園園長高島孝先生は次のように語っておられます。

「長島の気象観測の仕事は必ずしも義務ではない。然もこのまじめな努力によって20年の永きに亘りうけつがれて社会に貢献してきたことは実に長島の誇である。瀬戸内海の一島だがここに浮ぶ雲は日本を漂う雲であり長島を吹く風は世界を巡る風でもある。闘病生活のかたわら精巧なる機械を駆使し純科学的に行われつつあることは世の同病志にも語り終世何こともなすことなく過す人達に警告すべき材料となるべきものである。今後も日本のみならず世界によい気象資料を供給されんことを望むものである。」（長島気象観測所 横内武男 記）